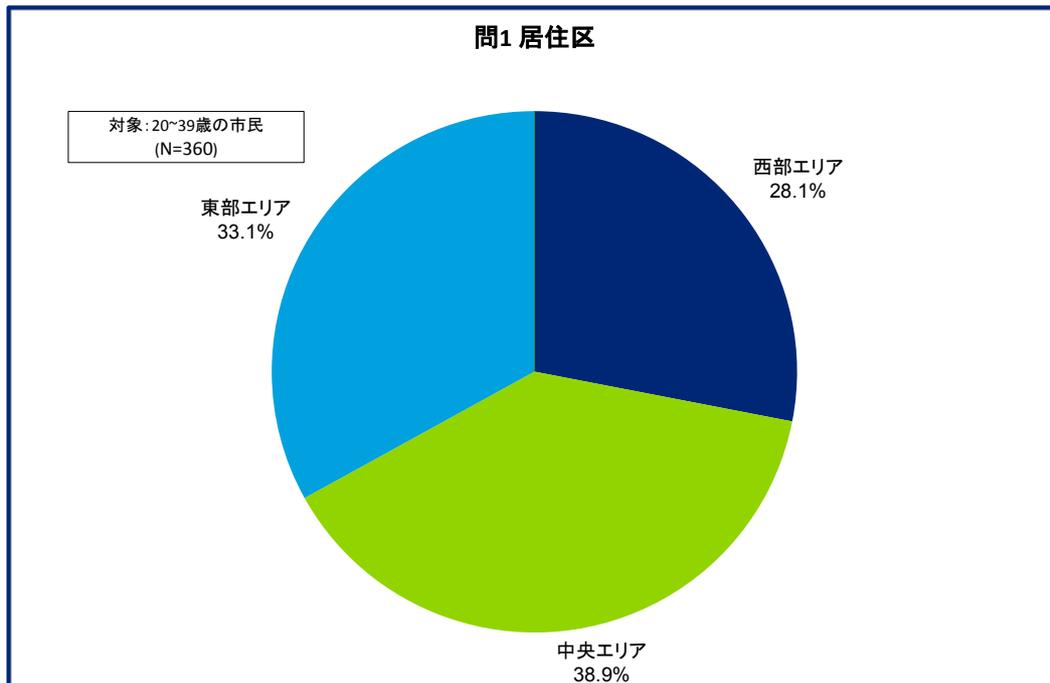


ア調査結果

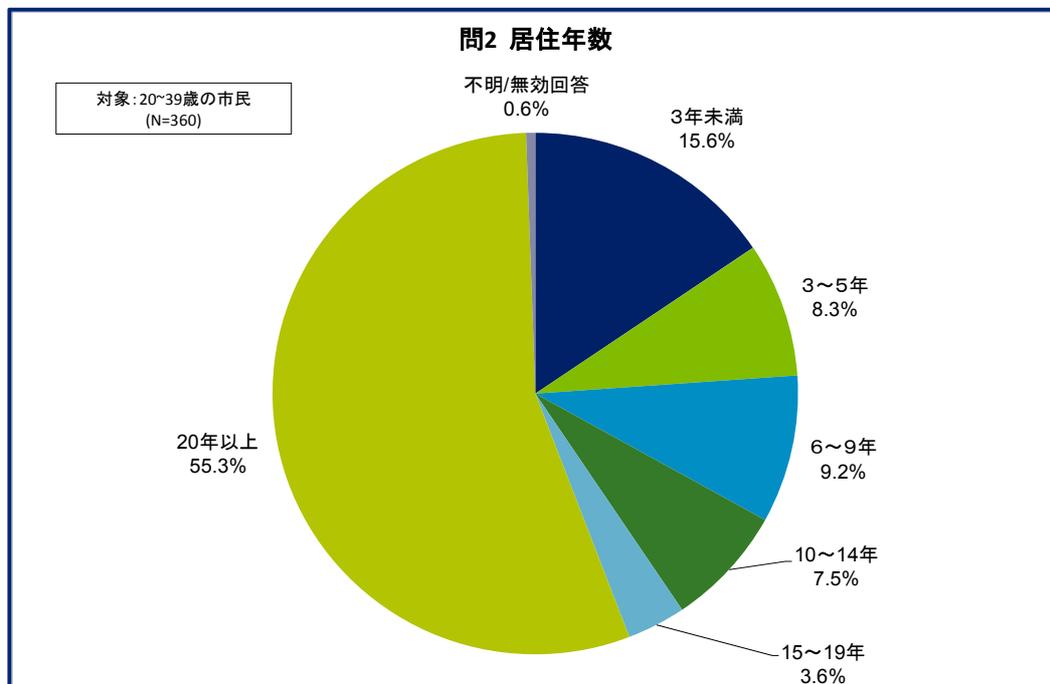
(7) 居住区 (問 1)

- 回答者の居住区は、「中央エリア」38.9%がもっとも多く、「東部エリア」33.1%、「西部エリア」28.1%が続いている。



(4) 居住年数 (問 2)

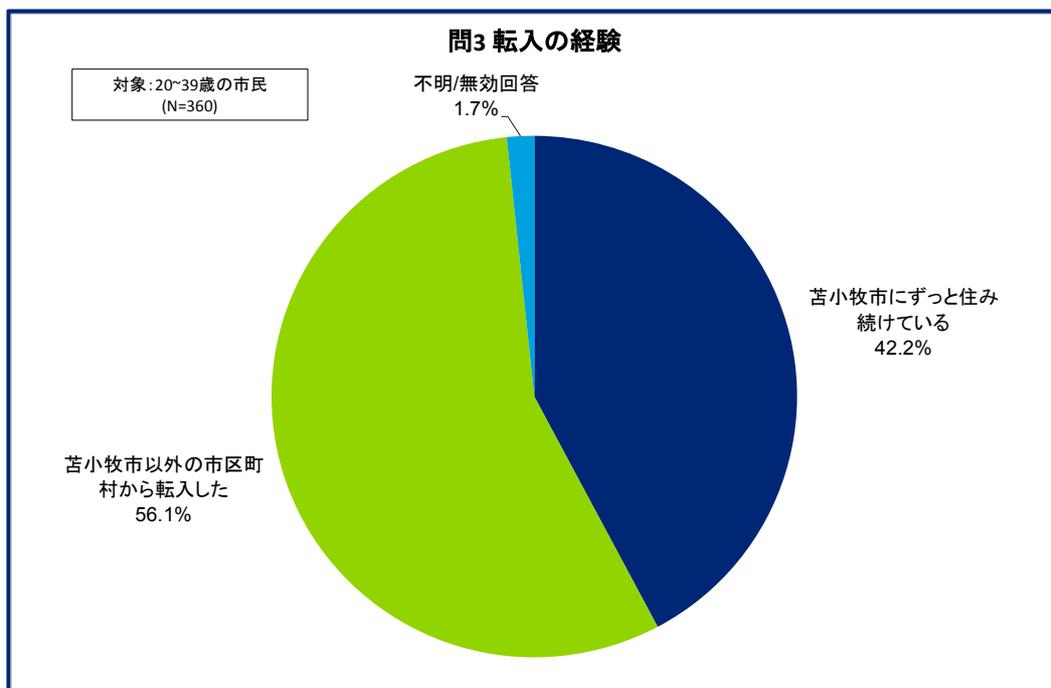
- 苫小牧市での居住年数では、「20年以上」が55.3%と最も多く、次点は「3年未満」(15.6%)となっている。



(ウ) 転入経験の有無、転入のきっかけ及び苫小牧市以外の転入検討先

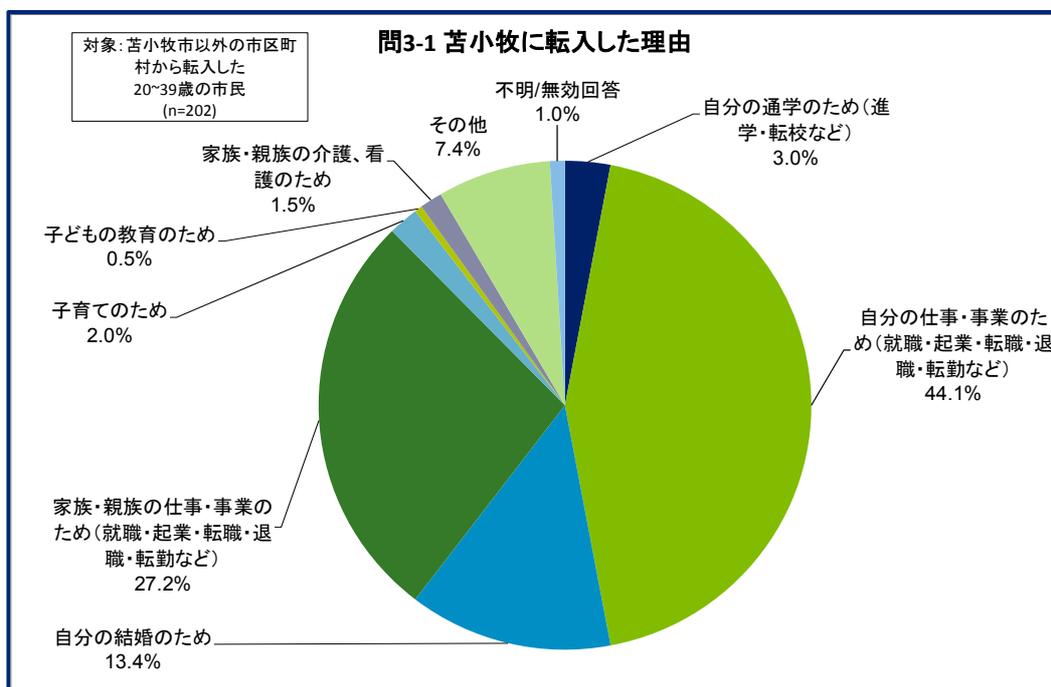
① 転入経験 (問 3)

- 転入の経験を見ると、「苫小牧以外の市区町村から転入した」のが56.1%であり、「苫小牧市にずっと住み続けている」との回答(42.2%)を上回っている。



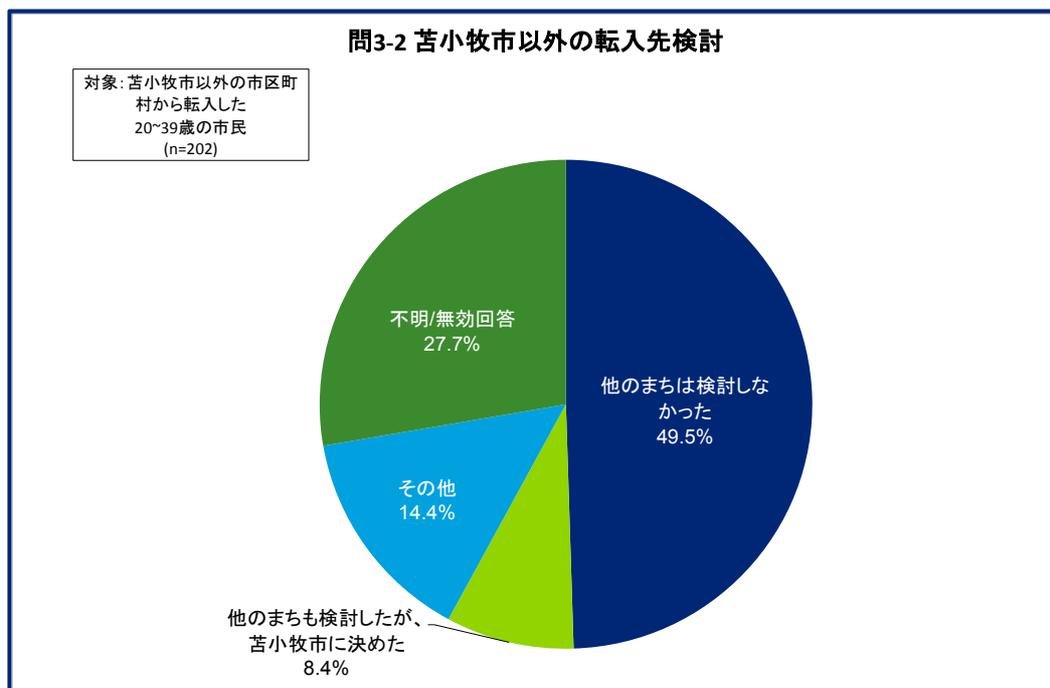
② 苦小牧市に転入した理由 (問 3-1)

- 転入経験ありの回答者に、転入のきっかけをきいたところ、「自分の仕事・事業のため」(44.1%)、「家族・親族の仕事・事業のため」(27.2%)、「自分の結婚のため」(13.4%)が上位3つとなっている。



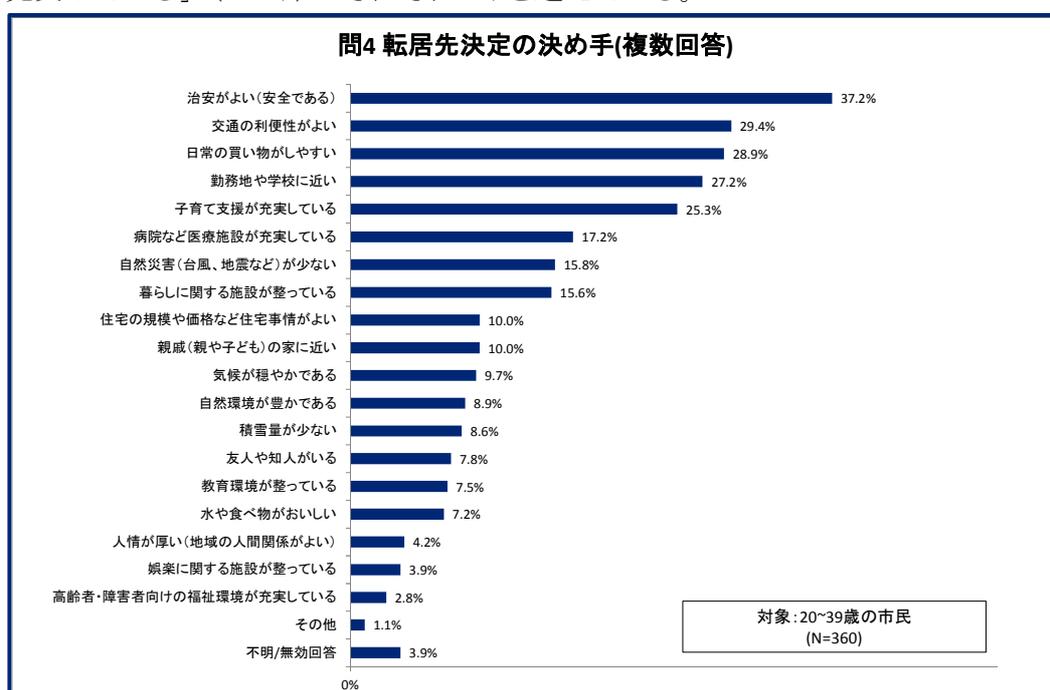
③ 苦小牧以外の転入先見当 (問 3-2)

- 転入時に「他のまちを検討しなかった」回答者は 49.5%とほぼ半数であり、「他のまちも検討した」回答者 (8.4%) を上回っている。



(I) 転居先決定の決め手 (問 4)

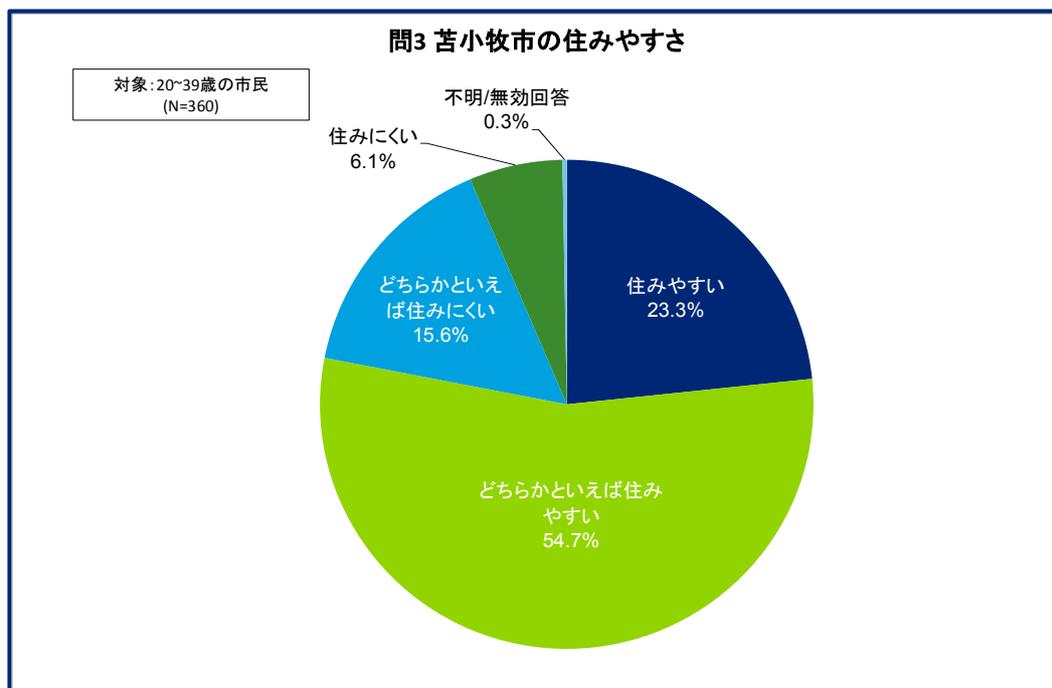
- ・ 転居先を決める際に考慮する環境として重要なもの (転居先決定の決め手) は、「治安がよい」(37.2%)がもっとも多く、「交通の利便性がよい」(29.4%)、「日常の買い物がしやすい」(28.9%)、「勤務地や学校に近い」(27.2%)、「子育て支援が充実している」(25.3%)がそれぞれ20%を超えている。



(II) 苫小牧市の住みやすさ及びその理由

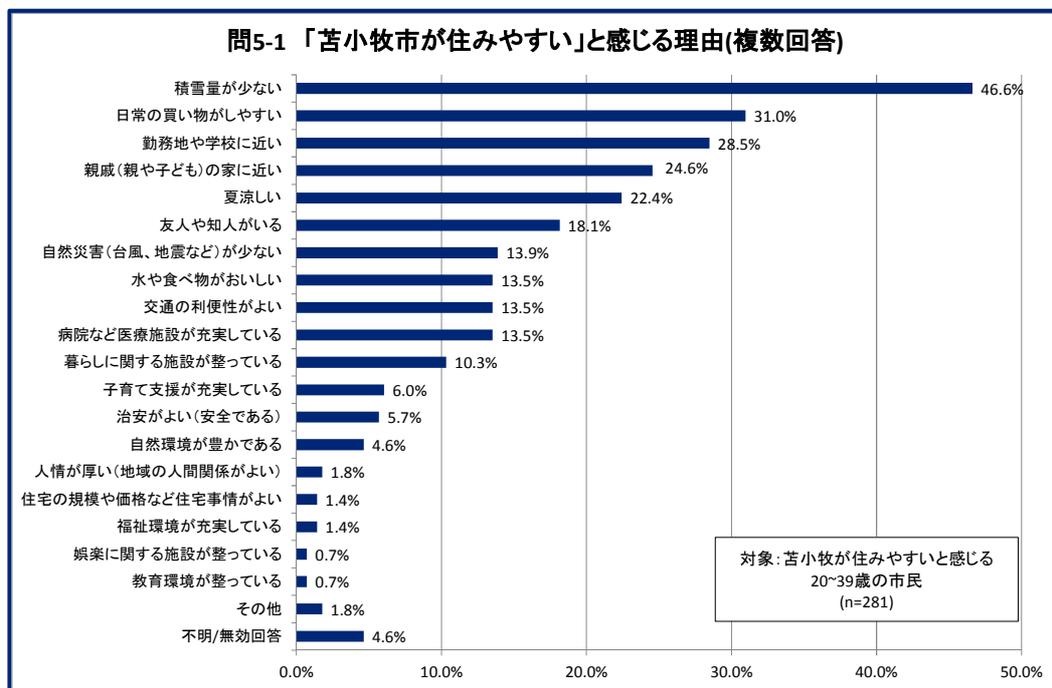
① 苫小牧市の住みやすさ (問 5)

- ・ 苫小牧市は「住みやすい」と回答した者は23.3%であり、「どちらかというに住みやすい」と回答した者54.7%を加えると、8割程度の住民が「住みやすい」と回答している。
- ・ 一方、「住みにくい」と回答した者は6.1%、「どちらかといえば住みにくい」と回答した者を加えると21.7%となる。



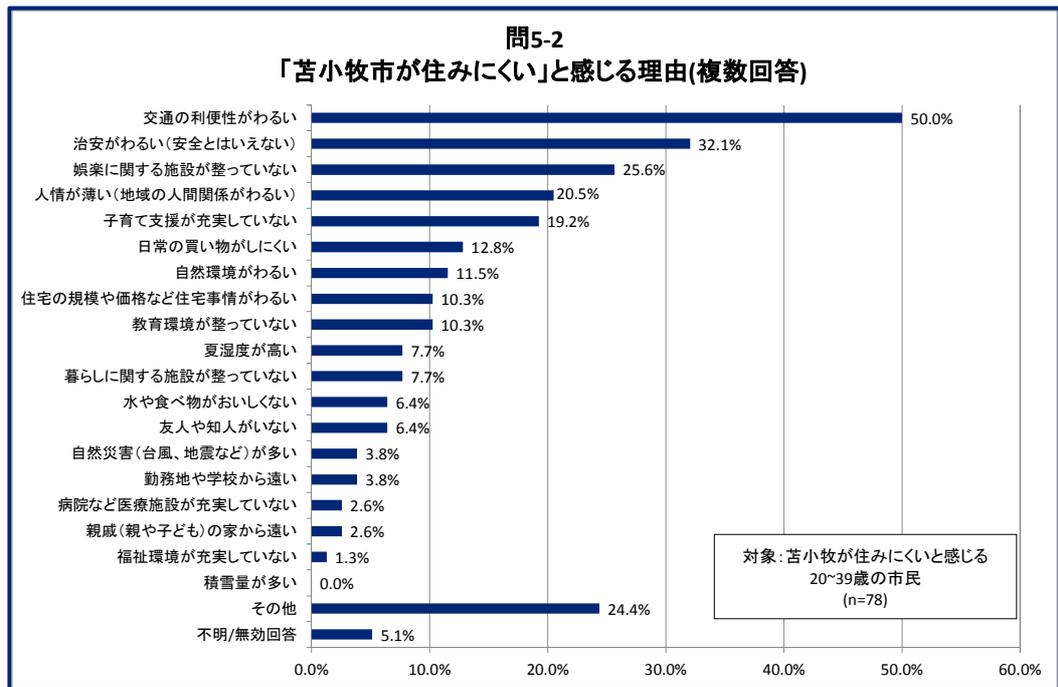
② 住みやすさの理由 (問 5-1)

- ・ 苫小牧市は住みやすいと回答した者に、住みやすい理由をきくと、もっとも多いのは「積雪量が少ない」(46.6%)が突出しており、「日常の買い物しやすい」(31.0%)、「勤務地や学校に近い」(28.5%)、「親戚の家に近い」(24.6%)、「夏涼しい」(22.4%)が続いている。



③ 住みにくい理由 (問 5-2)

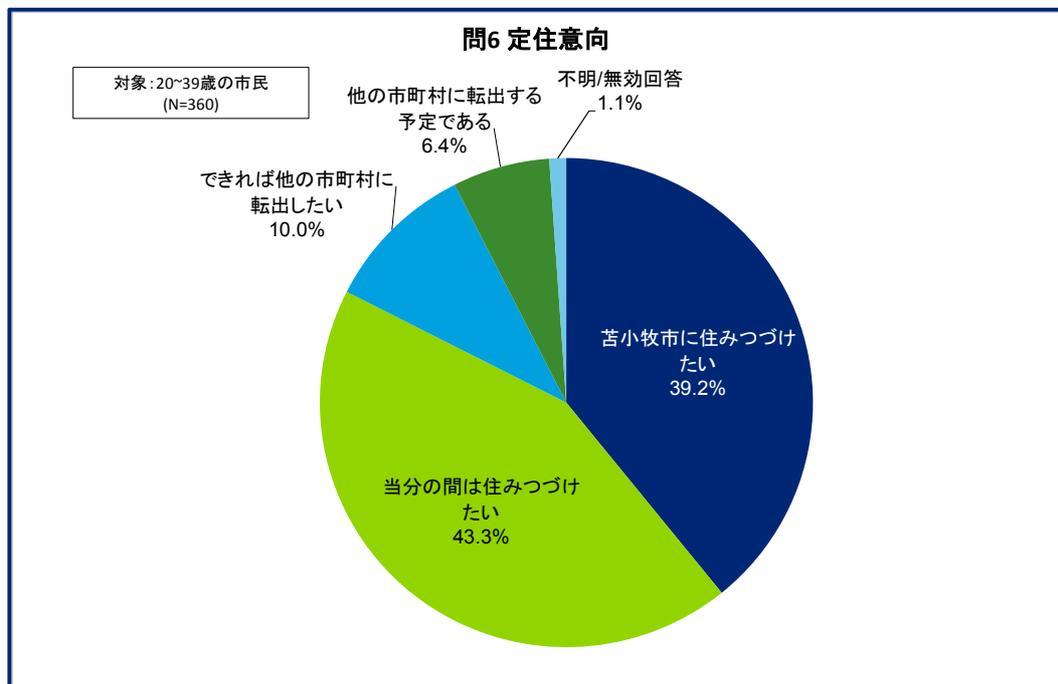
- ・ 本市は住みにくいと回答した者に、住みにくい理由をきくと、「交通の利便性がわるい」(50.0%)がもっとも多く、「治安がわるい」(32.1%)、「娯楽に関する施設が整っていない」(25.6%)が多くなっている。



(カ) 苦小牧市への定住意向、転出希望先及び転出する理由(問6)

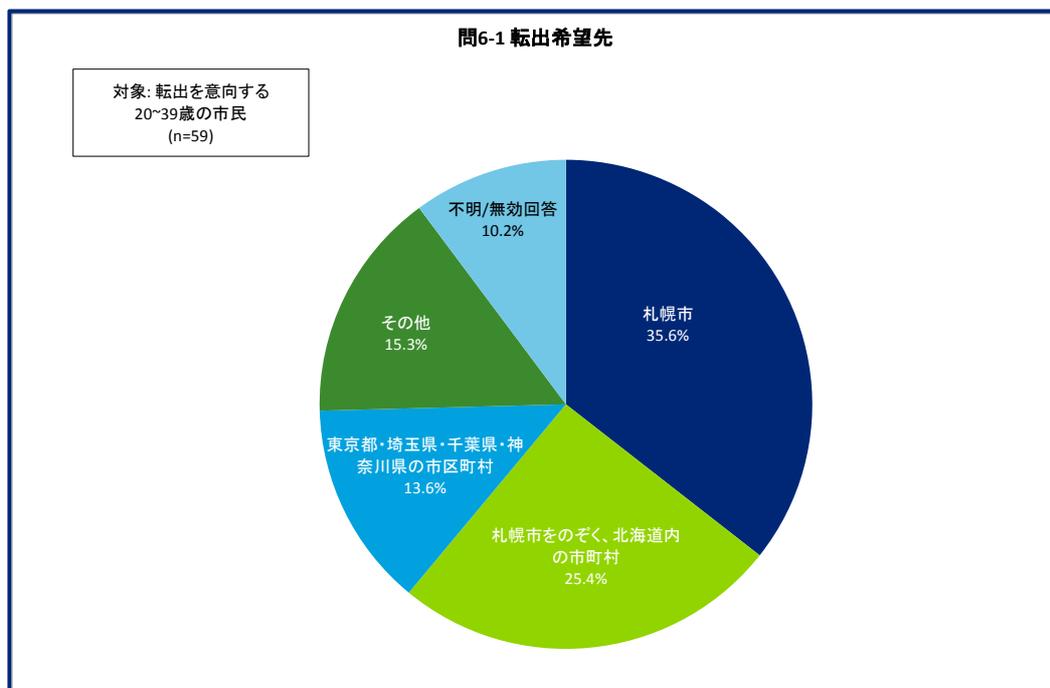
① 苦小牧市への定住意向

- 「苦小牧市に住みつづけたい」と回答した者は39.2%、「当分の間は住みつづけたい」と回答した者は43.3%で、合わせると82.5%が住みつづけたいと回答している。
- 一方、「できれば他の市町村に転出したい」と回答した者は10.0%、「他の市町村に転出する予定である」と回答した者(6.4%)を加えると16.4%となる。



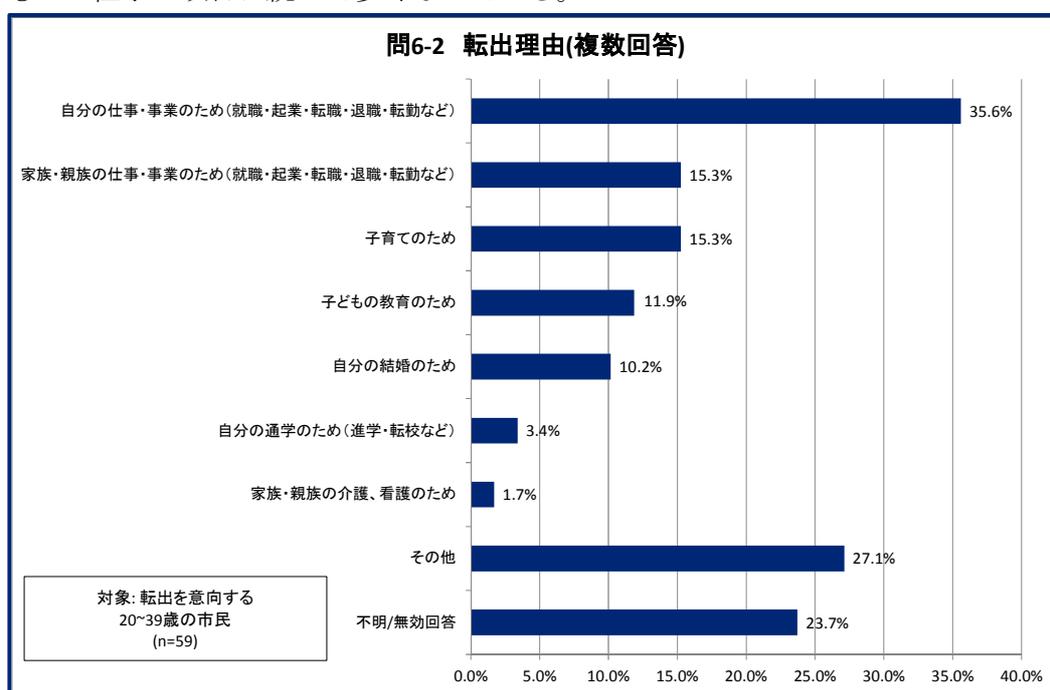
② 転出希望先(問6-1)

- この転出したい又は転出予定の回答者に対し、転出希望先をきいたところ、「札幌市」が35.6%と最も多く、「札幌市をのぞく、北海道内の市町村」が25.4%、「東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県」の市区町村」が13.6%となっている。



③ 転出の理由(問 6-2)

- ・ 転出する理由としては、「自分の仕事・事業のため」(35.6%)がもっとも多く、「家族・親族の仕事・事業のため」(15.3%)と仕事関係が目立っている。
- ・ 「子育てのため」(15.3%)、「子どもの教育のため」(11.9%)、と、子どもに関するものが仕事の項目に続いて多くなっている。

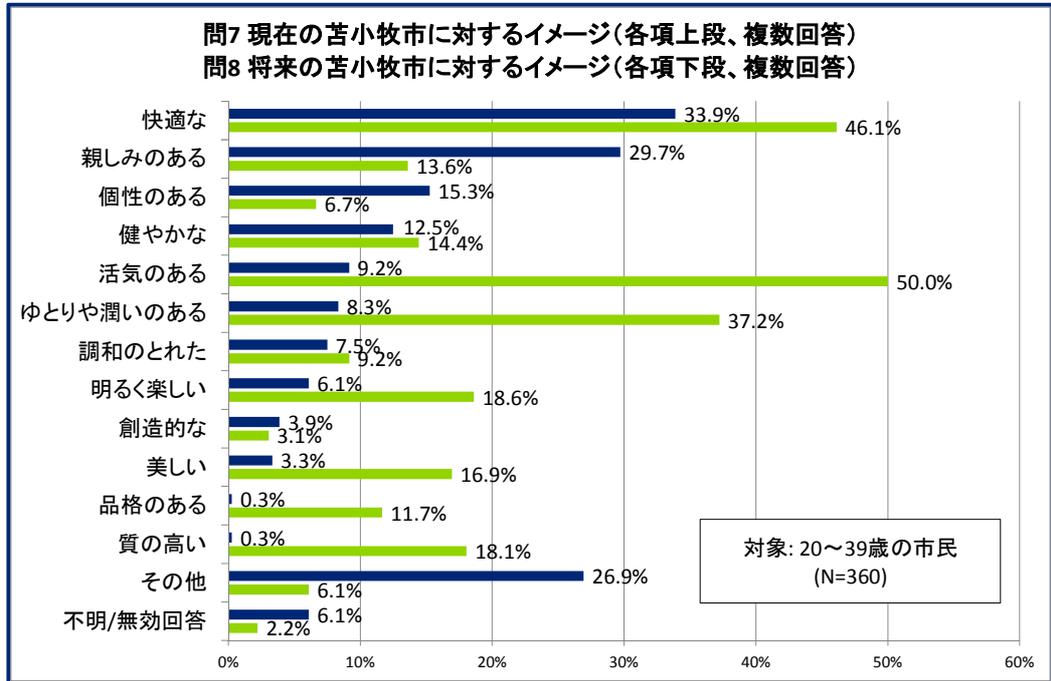


(キ) 苫小牧市のイメージ(問 7)

- ・ 現在の苫小牧市のイメージとしては、「快適な」(33.9%)、「親しみのある」(29.7%)と回答した者が多く、「質の高い」(0.3%)、「品格のある」(0.3%)と回答した者が少なかった。
- ・ 一方、将来の本市のイメージとしては、「活気のある」(50.0%)、「快適な」(46.1%)、「ゆとりや潤いのある」(37.2%)と回答した者が多く、「個性のある」(6.7%)、「創

造的な」(3.1%)と回答した者が少ない。

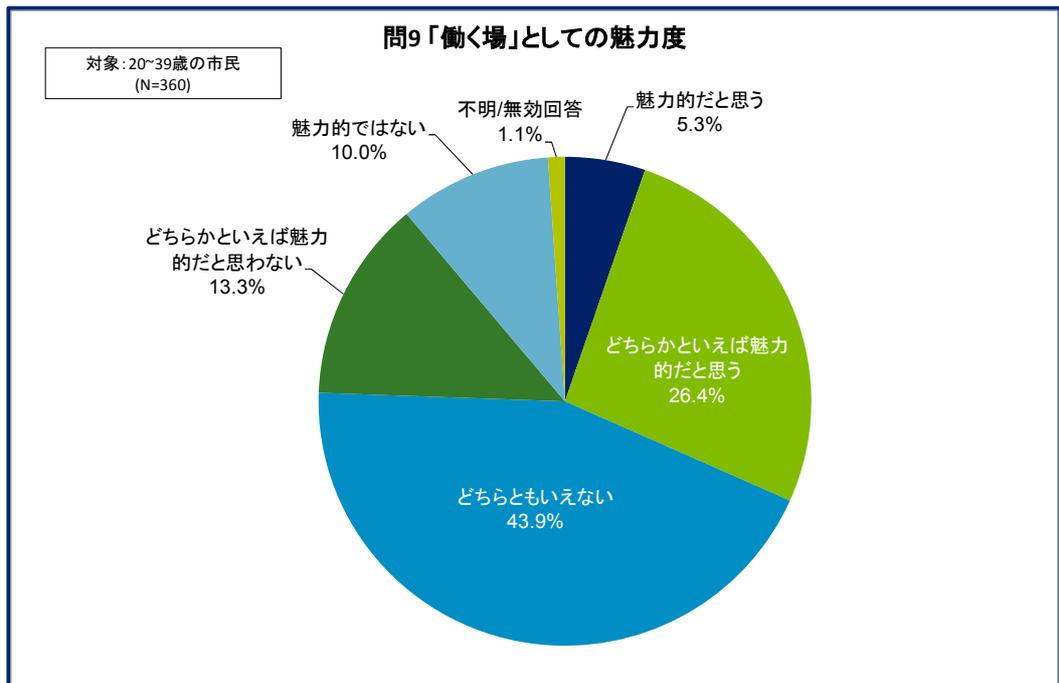
- ・ 現在と将来とで差が大きいのが、「活気のある」(差:40.8%)、「ゆとりや潤いのある」(差:28.9%)であり、各項目の総計では将来が現在よりも100ポイント以上を上回っている。



(ク) 働く場としての苦小牧市の魅力度とその理由

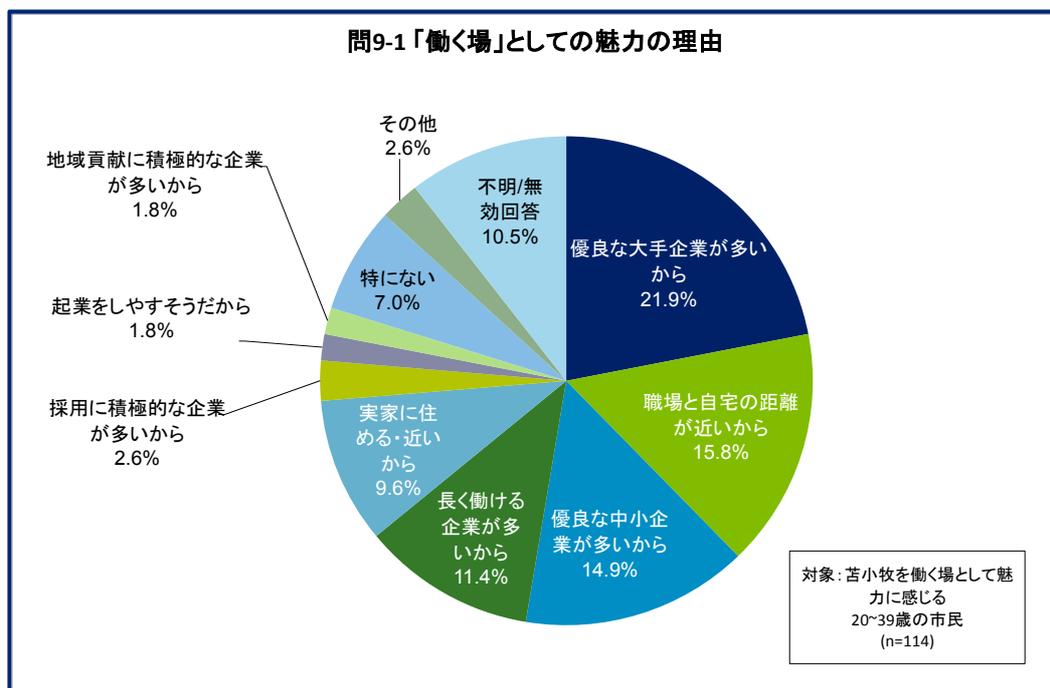
① 働く場としての苦小牧市の魅力度(問9)

- ・ 働く場として苦小牧市を魅力的だと回答しているのは、「魅力的だと思う」(5.3%)と「どちらかといえば魅力的だと思う」(26.4%)を合わせて、31.7%である。
- ・ 一方、「魅力的ではない」との回答は、「どちらかといえば魅力的だと思わない」(13.3%)との回答を合わせて23.3%となっている。



② 働く場としての苦小牧市の魅力度(問 9-1)

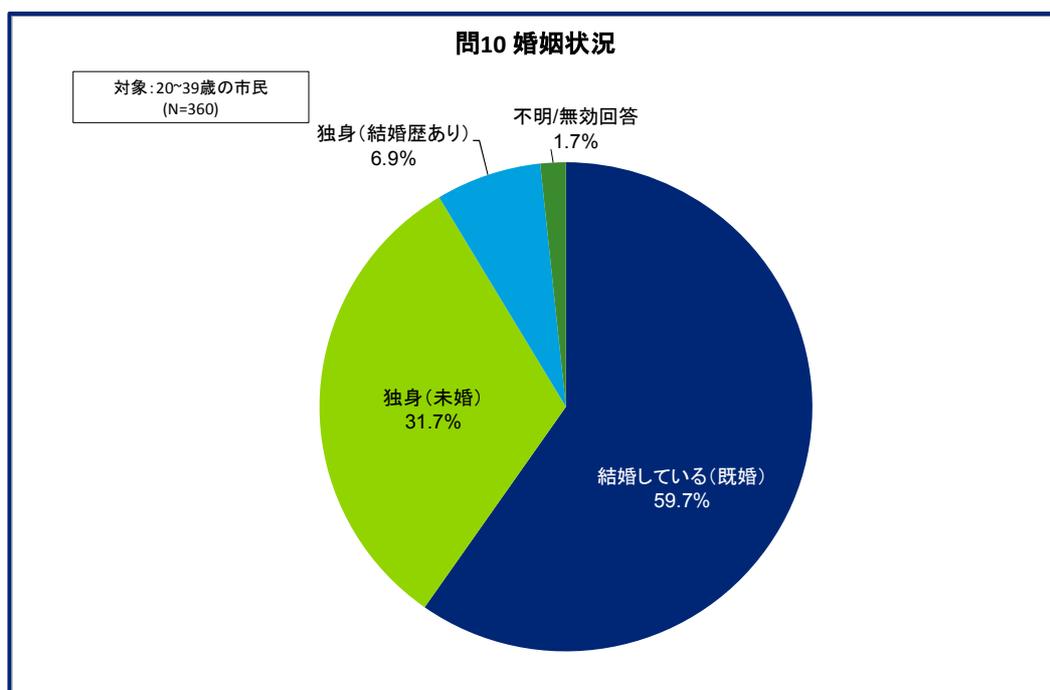
- ・ 苦小牧市を働く場として魅力的だと感じる理由をきくと、「優良な大手企業が多いから」(21.9%)、「職場と自宅の距離が近いから」(15.8%)、「優良な中小企業が多いから」(14.9%)が上位を占めている。



(ケ) 婚姻状況と結婚への意向

① 婚姻状況(問 10)

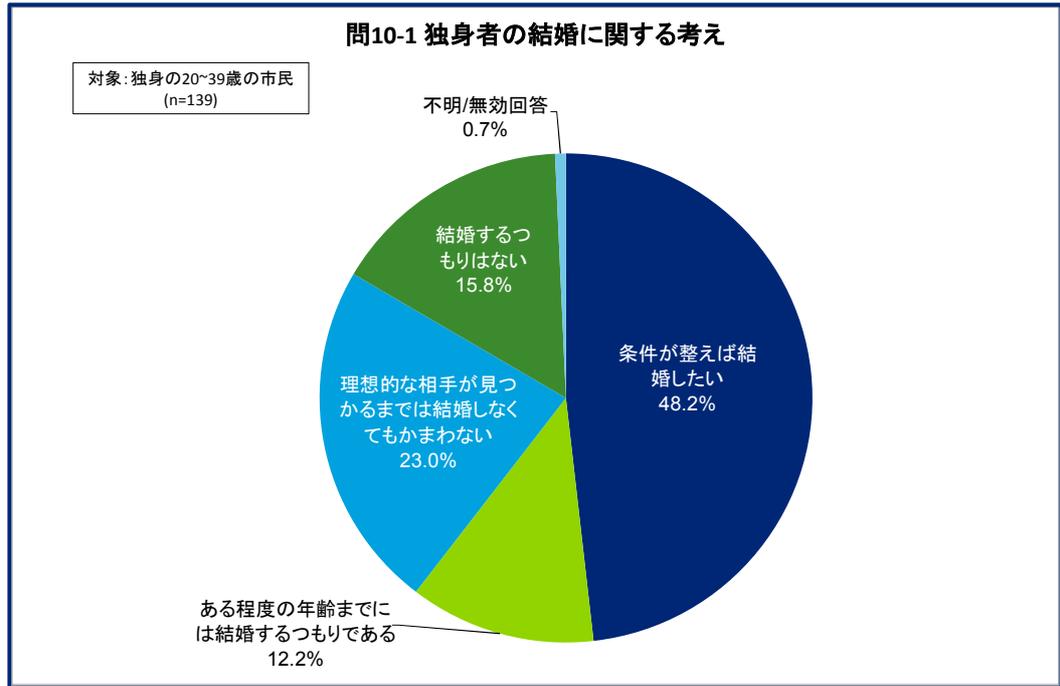
- ・ 回答者の婚姻状況をみると、既婚者が 59.7%、独身(未婚)が 31.7%、独身(結婚歴あり)が 6.9%となっている。



② 独身者の結婚に関する考え(問 10-1)

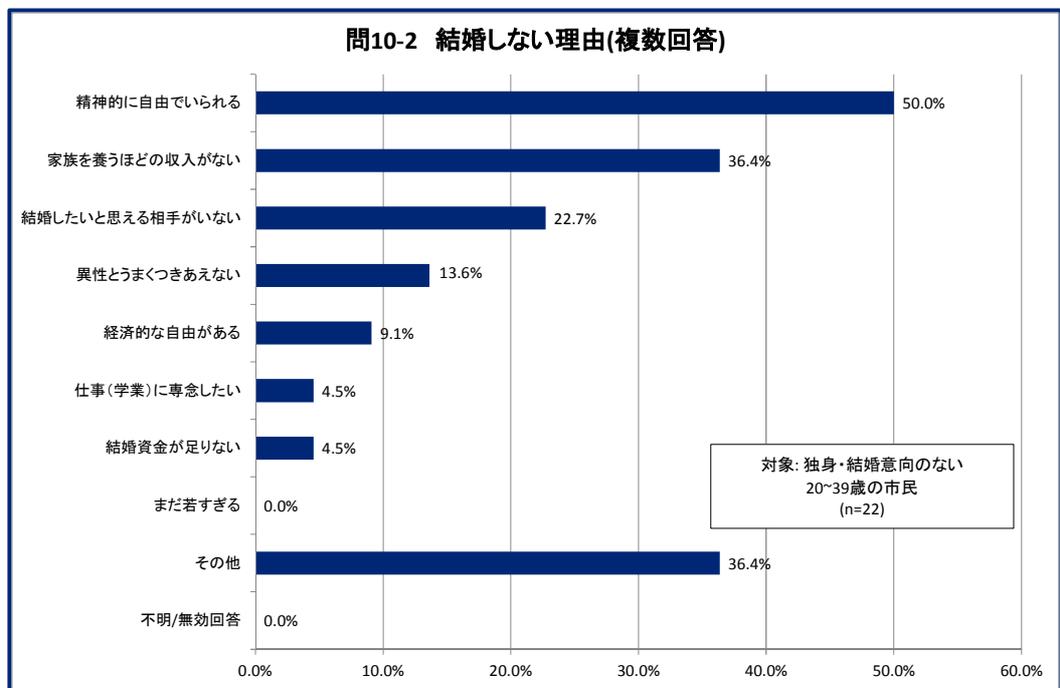
- ・ 独身者の結婚に関する考えでは、「条件が整えば結婚したい」との回答は 48.2%で、

「結婚するつもりはない」との回答は15.8%である。



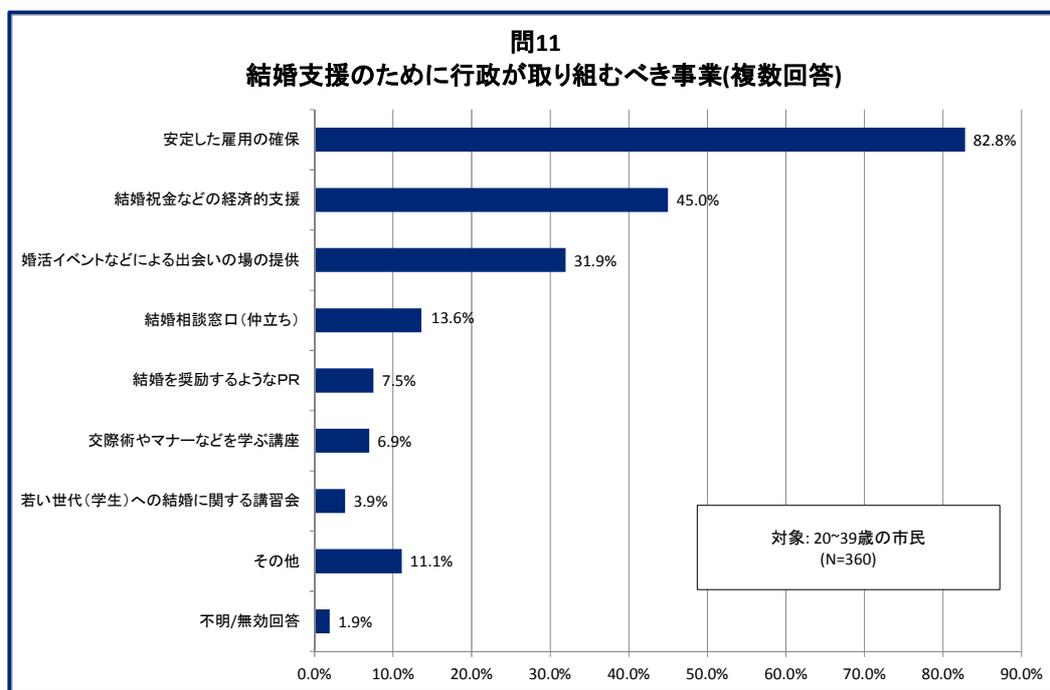
③ 結婚しない理由(問 10-2)

- 独身で結婚するつもりはないと回答した者に理由をきくと、「精神的に自由でいられる」(50.0%)との回答がもっとも多くなっている。「家族を養うほどの収入がない」(36.4%)、「結婚したいと思える相手がいない」(22.7%)との回答も多くなっている。



(コ) 結婚支援のために行政が取り組むべき事業

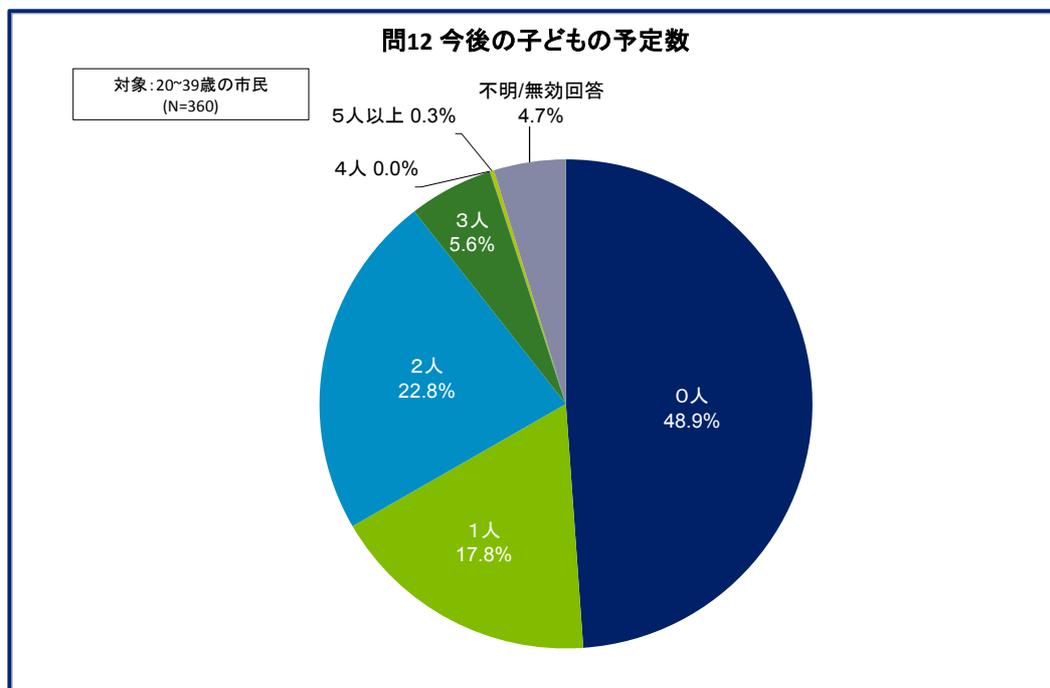
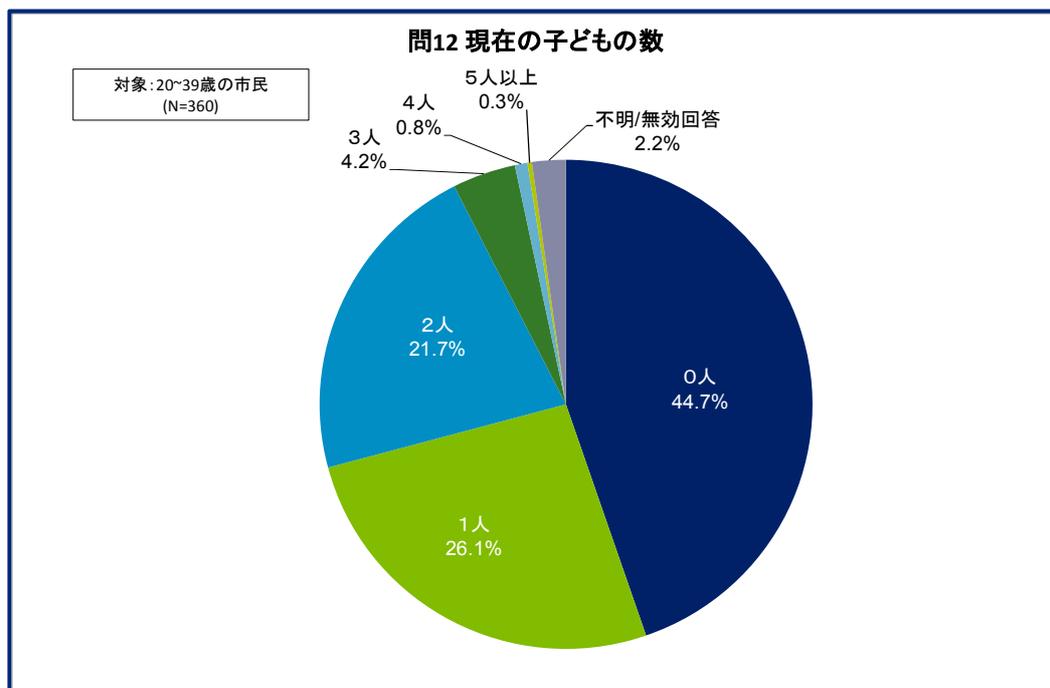
- 結婚支援のために行政が取り組むべき事業としては、「安定した雇用の確保」(82.8%)との回答がもっとも多く、「結婚祝金などの経済的支援」(45.0%)、「婚活イベントなどによる出会いの場の提供」(31.9%)が続いている。



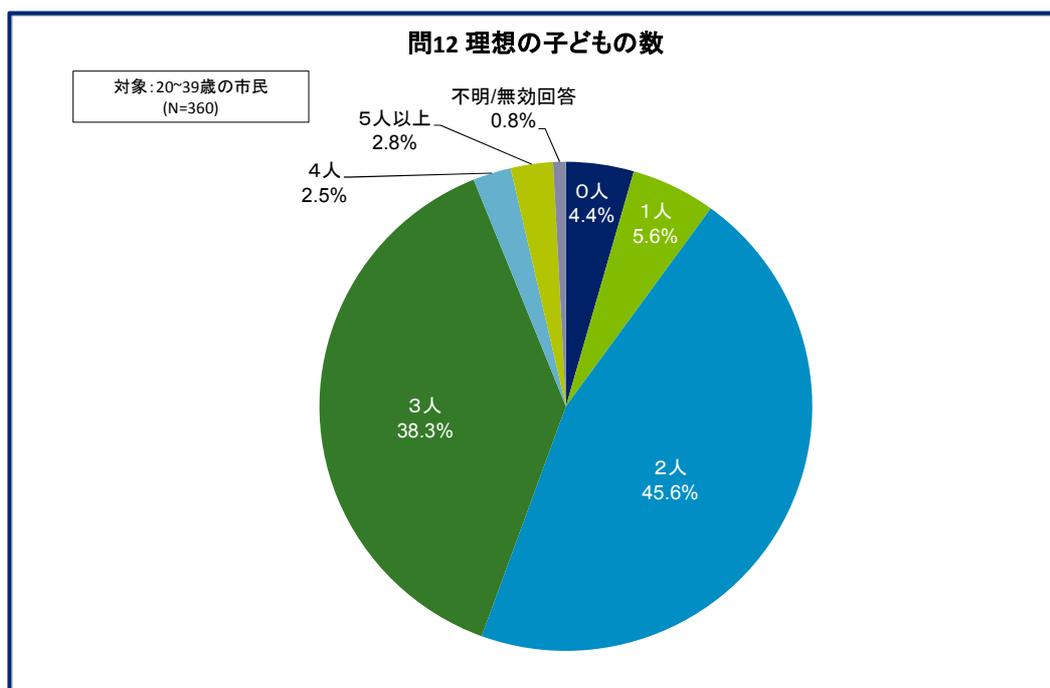
(サ) 子どもの数

① 子どもの数 (問 12)

- 現在の子どもの数、今後の子どもの予定数及び理想的な子どもの数は次のとおりである。
- 現在の子どもの数は、「0人」(44.7%)が最も多く、次いで「1人」(26.1%)、「2人」(21.7%)となっている。
- 今後の予定数も、「0人」(48.9%)が最も多く、次いで「2人」(22.8%)、「1人」(17.8%)となっている。

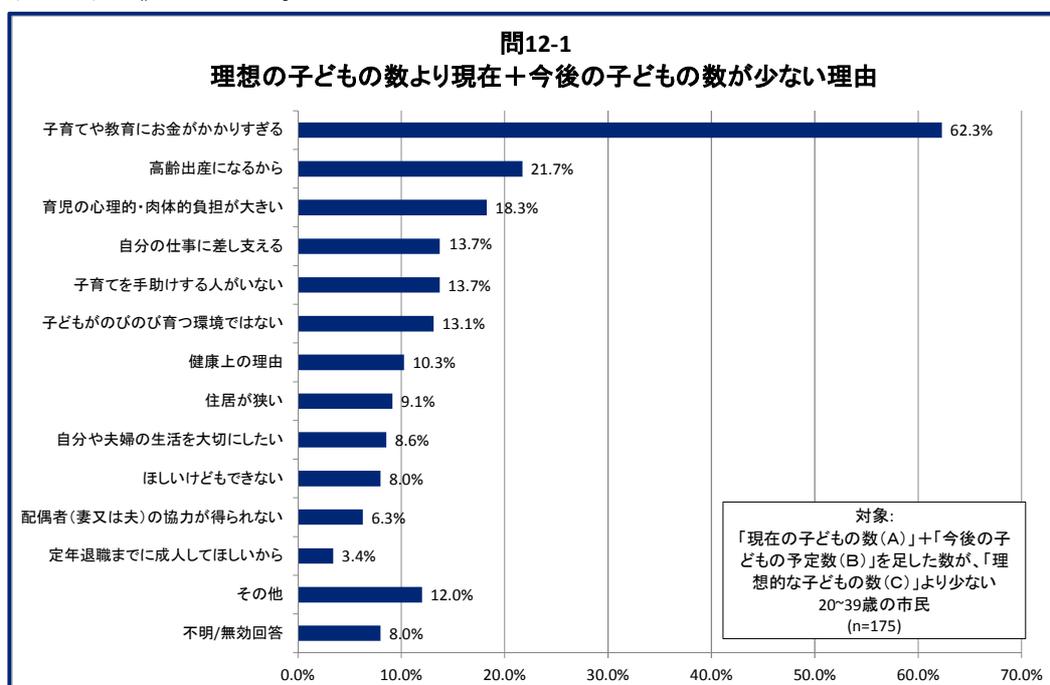


- ・ 理想的な子ども数は、「2人」(45.6%)、「3人」(38.3%)が多くなっている。
- ・ なお、平均数を計算すると、2.38人となる。

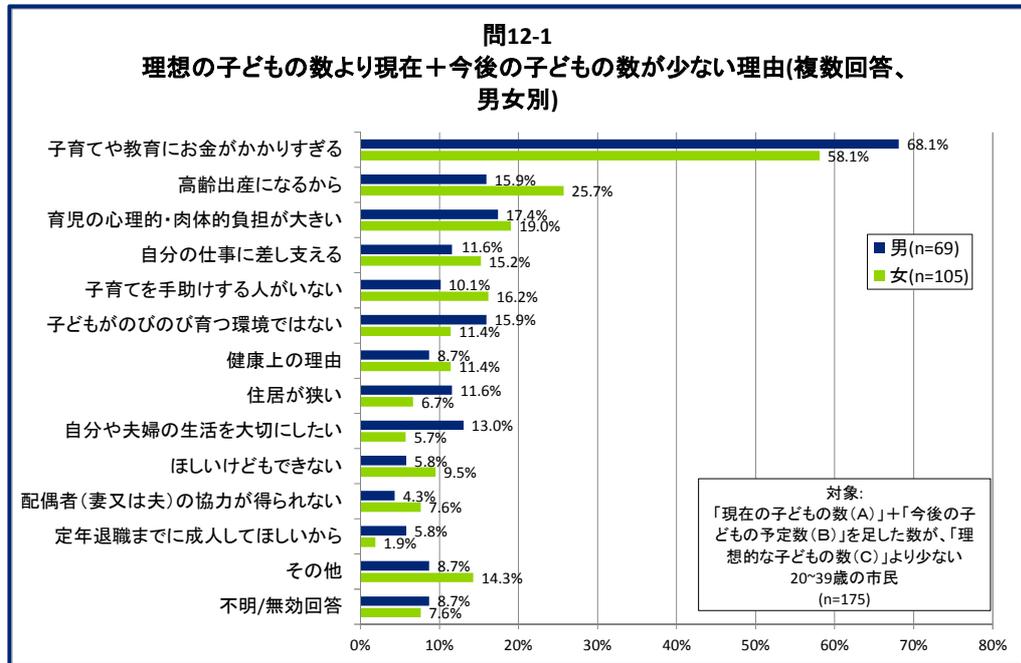


② 理想の子どもの数より現在と今後の子どもの数が少ない理由 (問 12)

- ・ 現在の子どもの数と今後の予定数の合計が理想数よりも少ないと回答した者は、全体の 48.6%である。
- ・ 理想の子どもの数より少ない理由をきいたところ、「お金がかかりすぎる」(62.3%)が最も多く、「高齢出産になるから」(21.7%)、「心理的・肉体的負担が大きい」(18.3%)が続いている。

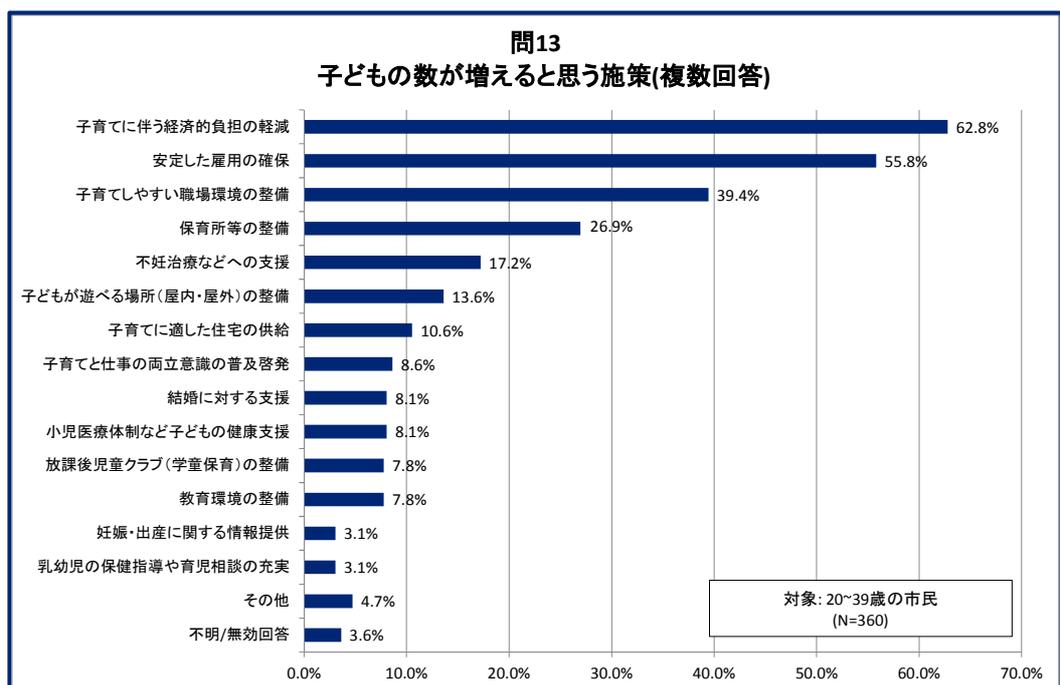


- また子供の数が理想よりも少ない理由を男女別に区分すると、男性は「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と回答した人が相対的に多い一方、女性は「高齢出産になるから」、「子育てを手助けする人がいない」と回答した人が多く、理由には男女差が見られた。



(シ) 子どもの数が増えると思う施策・対策(問13)

- 子どもの数が増えるための支援・対策をきいたところ、「経済的負担の軽減」(62.8%)がもっとも多く、「安定した雇用の確保」(55.8%)が続いている。



- 子どもの数が増えると思う支援・対策を男女別に区分したところ、男性は「子育てに伴う経済的負担の軽減」、「安定した雇用の確保」、「結婚に対する支援」など経済的支援策を求める声が相対的に多い一方、女性は「不妊治療などへの支援」、「放課後児童クラブ（学童保育）の整備」、「子育てしやすい職場環境の整備」など、出産、子育てに関する施策を求める声が多かった。

